



2019年度 学校経営・運営ビジョン 福島県立視覚支援学校

学校教育目標

視覚障がいにより生じた困難を克服し、社会の変化に主体的に対応できる確かな学力を身に付け、積極的に生きていく豊かな心と健やかな体を持つ調和のとれた人間を育成する。

- 自ら学び・考え・行動する人間
- お互いを尊重し、思いやることのできる人間
- 健康でたくましく明るい人間

3つの「たい」のある学校をめざして

福島県立視覚支援学校長 須田 康仁

121年目を迎えた今年度、学校経営・運営ビジョンを一新しました。めざす学校は、児童生徒にとっては「行きたい学校」、保護者の皆さんからは「行かせたい学校」、そして地域の皆さんから「頼りたい学校」です。児童生徒の状態や状況等に合わせた指導を実践し、進路等の目標の達成を支援します。それにより保護者からの信頼を得て、本校で学ばせることに誇りを持っていただくよう努力します。そして地域からは、視覚障がい教育に関する専門性の高い学校として、信頼され必要とされる存在でありたいと考えています。

さらに私たちは、教職員としての情熱を持ち続けながら児童生徒の人権を尊重し、公務員として不祥事の根絶にも努めます。今後も“子どもと保護者、そして地域と共に”歩んでいきますので、皆様方のご理解とご支援をお願いいたします。

2019年度 重点目標

1. 地域支援センター「のびのび」の理解・啓発を進めながらセンター的機能をさらに充実させ、幼保・小中高特各学校や地教委、関係機関と連携し、視覚に障がいのある乳幼児から成人まで一貫した支援体制の推進に努めます。
2. 視覚障がい教育に関する研修を実施し、自校他校問わず本教育に携わる教員の資質向上を図ります。

行きたい学校

○「わかる授業」「できる授業」を実践しながら、確かな知識・能力・技術を習得させ、それぞれの進路実現をめざします。

1. 児童生徒一人一人の見え方の状態や障がいの特性等に配慮し、進路実現に必要な確かな学力の向上と授業の実践に努めます。
2. 小学部・中学部・高等部においては、専門性を発揮しながら少人数を生かした指導を充実させ、積極的な社会参加と自立をめざします。
3. 理療科においては、臨床の知識・技能の定着を図り、国家試験合格とあはき師のプロフェッショナルの育成に努めます。

行かせたい学校

○発達段階や障がいの状態等に応じて、健康で安全な生活を営む姿勢を育くみ、家庭と協力しながら自立に向けた生活能力の向上をめざします。

1. 学習指導のみならず、触れる・聞く等の体験に重点を置いた活動を積極的に展開し、成就感を高め、豊かな人間性の育成に努めます。
2. 児童生徒が自らの障がいや健康に関心を持ち、適切な健康管理ができるよう食育や健康教育を推進します。
3. 将来の自立と社会性の育成を目標に据え、家庭と連携しながら、寄宿舎におけるきめ細かな生活指導に努めます。

頼りたい学校

○地域との協働を重視し、学校のみならず様々な団体等との交流および共同学習を推進し、理解啓発を積極的に行います。

1. 地域支援センターの役割を全県下で積極的に推進し、視覚障がいを有する方とその家族を支援し、自立と社会参加を促します。
2. 地域や近隣の学校との共通理解に努め、交流および共同学習を通じて互いを理解し学び合う教育活動を推進します。
3. 視覚支援学校を幅広くアピールする機会を設けるとともに、様々な場で学校の教育活動を多くの方々に周知していただくよう努めます。